

この度は、私達のためにSail for Smiles Yacht Race 2012を開いていただき、またご招待までしていただき、ありがとうございます。

僕は、1年生の冬に震災を経験しました。地震は僕達が出艇する直前に起り、部室の中はメチャクチャになり、周囲では地割れも起きました。近くの高台へ登り、押し寄せる波を見ていましたがそれはまさに地獄のような光景でした。

ヨットも、艇庫も流失し、一時はヨットを続けることを諦めていた時期もありました。そんな中で、当時は部活動誘導をしなかったにもかかわらず、後輩が入部希望をしてくれました。また、たくさんの方々から多くの支援やメッセージをいただきました。それから私達の支えとなり、今までヨットを続けてこれました。『海はつながってる』って本当だな、と感動しました。

元々、やっぱり、ヨットって楽しいなと感じました。

そして今回、葉山まで行くことができました。とーー、でも楽しめたです(笑)

#### Sail for smiles の皆様へ

この度は、貴重な体験となるクルーザーの大会に参加させていただきありがとうございます。クルーザーに乗るのは初めての経験でしたが、皆様が優しく丁寧に教えていただいたおかげで楽しく乗ることができ、とても感謝しています。

この前、県総体が行われ、私たち気仙沼高校は5位という結果で終了しました。しかし、6月15日からは東北大会が行われます。県総体では良い結果を残すことができなかたりで、悔いが残る戦いをさせたと思います。

こうして大会にでられるのも、皆様から支援してもらえたおかげです。本当にありがとうございます。

気仙沼高校 3年  
及川拓海

こんにちは。先日は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。相模湾は眺め最高、設備最強で一流の素敵な場所でした。風が（自分にとって）強くても広いと思いました。クルーザーの上は優雅な場所と想像していましたが、意外にも動きが激しくて行くのに自分は必死でした。テントを大きく押したり引いたり船を動かして、緊張感・爽快感・ドヤという気持ちになりました。海から見渡した横浜の町は震災の影響が見えなくてにぎやかで美しくて良いなあ、と正直思いました。いたたいて食べたカラミはとてもおいしかったです。みんなが明るくて優しくて筋肉質で憧れました。自分達が見えないところで、みんなに多くの方々が私達がセーリングをするために色々なことに力を費やしてくださいさっている、ということはっきり分かりました。支援に甘えるのではなく、支援を確実にエネルギーに変えています。練習を重ねても、と上手くなりたいです。今日は色々な事を感じて気仙沼に帰できました。大切な経験となりました。

本当にありがとうございました。

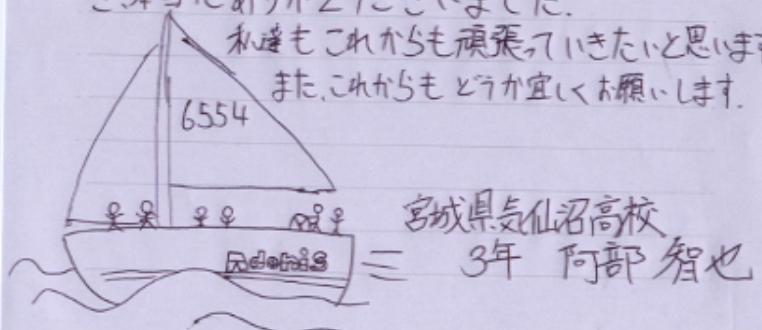
気仙沼高校 2年 伊藤依里

大坪さんはじめ、皆優しくて、明るい方々ばかりでした。おかげで、とても楽しく、充実した一日を過ごすことができました。

僕は、向洋高校さんと一緒にAdonis、皆さんにお世話をになりました。初めてヘルムをやってみて、最初はすごく緊張して、すごく蛇行させてしましましたが、最後の方、フリーを走る時は、まっすぐ走れるようになつた(?)と思います。とても貴重な経験ができ、一生忘れられない良い思い出ができました。

皆さんには、あたたかいご支援、お心づかいをいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今回、私達にこのような貴重な機会をえていただき、本当にありがとうございます。

私達もこれからも頑張っていきたいと思います。また、これからもどうか宜しくお願いします。



洋語の日本語化は、必ずしも日本文化の発展に寄与するものである。

しかし、一方で、日本文化の発展を阻害する要因ともなる。

このことは、日本文化の発展を阻害する要因ともなる。

四月廿八日

午後

拝啓 向暑の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろより本校の教育活動に対し、格別なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

そしてこの度、生徒を励ましていただく機会を設けて頂き誠にありがとうございました。昨年度から継続的なご支援を賜り、ヨット部の生徒はもとより、本校生徒や職員にとっても大きな励みとななりました。改めて御礼を申し上げます。

さて、震災から早1年余が経過しました。おかげ様で本年度は始めからほぼ通常通りに学校活動を開始することができました。学習や部活動でもまだまだ制約の残る中ではありますが、生徒は一生懸命に活動しております。これも、ひとえにご支援をいただいた皆様の暖かい心に支えられてのことと感謝申し上げます。一方、気仙沼市全体の経済基盤復旧や雇用問題はなかなか改善しておらず、経済的な不安を抱える生徒も多く、今後進路選択に向け影響が懸念されるところであります。しかし、そのような中においても、鉄道の復旧の動きなど着実な取り組みも進んでおり、今後の復興の速度が加速されることが強く期待されるところです。

今後私たちは、生徒と職員が心を一つにして学校発展のために教育活動に励むことが、このふるさとの復旧・復興の大きな力になるものと確信しております。

また、この大震災で体験したことを多くの方々に語り継ぎ後世に伝えるとともに、皆様方からいただいたご支援を忘れず、必ずご恩返しをすることが私たちの責務と考えております。

最後になりましたが、御礼の挨拶が遅れましたことをお詫び申し上げるとともに、Sail for Smiles の益々のご発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。誠にありがとうございました。

敬具

平成24年6月13日

Sail for Smiles の皆様

宮城県気仙沼高等学校 校長 庄子 英利